

公益社団法人 日本臨床細胞学会
2022 年度第 3 回理事会 議事録

日時： 2022 年 11 月 15 日（土）7：30-9：30

場所： 仙台サンプラザ第 2 会場 3F クリスタルルーム
WEB 同時開催

役員総数： 42 名（理事 39 名、監事 3 名）

出席総数： 理事 36 名

（理事）（現地） 佐藤 之俊、青木 大輔、阿部 仁、有廣 光司、伊藤 仁、伊藤 潔、井上 健、植田 政嗣、榎本 隆之、大平 達夫、岡本 愛光、小田 瑞恵、川名 敬、齋藤 豪、澁木 康雄、進 伸幸、田尻 琢磨、田畑 務、都築 豊徳、長尾 俊孝、中村 直哉、廣岡 保明、藤井 多久磨、前田 一郎、松浦 祐介、三上 芳喜、宮城 悦子、森井 英一、森谷 卓也、矢納 研二、山口 倫、横山 正俊、横山 良仁、若狭 朋子

（理事）（WEB） 小笠原 利忠、羽場 礼次

出席総数： 監事 2 名

（監事）（現地） 長村 義之、土屋 眞一

（総務委員会委員）（現地） 山下 博

（総務委員会幹事）（現地） 片岡 史夫

（総務委員会幹事）（WEB） 星 利良、和田 直樹

本理事会は、定足数の半数以上（理事 39 名中 36 名出席）を満たしたので有効に成立した。テレビ会議システムにより、出席者の音声即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同様に適時適格な意見表明が互いにできる状態が確認され、議題の議事に入った。

議長： 進 伸幸 総務委員会委員長の司会進行

本議事録において定款第 23 条第 3 項で定める、理事長、副理事長及び常務理事の職務執行状況報告については＊印を付す。

本理事会の開催にあたり、＊佐藤 之俊 理事長、＊齋藤 豪 副理事長[専門医制度、専門医、臨床研究]、＊中村 直哉 副理事長[認定試験、検査士、教育]、＊森谷 卓也 副理事長[学術、国際交流、IAC]、＊森井 英一 副理事長[総括、事務局運営、編集]、＊岡本 愛光 副理事長[財務、渉外]の挨拶および報告が行われた。

＊理事長報告・挨拶（佐藤 之俊）

新型コロナウイルス感染が少し増加傾向にある中、第 61 回秋期大会を無事開催にこぎつけられた。伊藤大会長はじめ関係各位のご努力に厚く御礼申し上げます。本日は議題が多く時間

も限られており、重要議題を中心にご審議いただきたい。コロナの終息が見えない中で、各種委員会活動もフルに行われたという状況ではないが、回復しつつあると感じている。学術集会に関しても、すこしずつ人の流れが戻ってきたようである。現在、来年度からの理事選挙が行われている。全国区が終了し今後地方区の選挙が行われるが、学会の方向性を決める重要な選挙であり、円滑な選挙にご協力をお願いしたい。細胞検査士・専門医の資格試験に関しては、それぞれ担当の先生方を中心に準備は滞りなく進んでいるようであり、今後ともよろしくお願いしたい。審議事項としては、会員資格停止・復帰に関してや2024年の64回秋期大会長の選出がある。限られた時間ではあるが、しっかりとした議論をお願いしたい。

*副理事長報告（齋藤 豪、中村 直哉、森谷 卓也、森井 英一、岡本 愛光）

齋藤 豪 副理事長： 専門医の付加価値を高めるべく細胞診制度管理アドバイザー制度の中身を練っている。まもなく全容がはっきりしたところで、皆様におはかりしたい。より多くの臨床系医師が専門医の取得を希望するような仕組みを考えていきたい。

中村 直哉 副理事長： 本日、細胞検査士試験について細胞検査士委員会（委員長 都築 豊徳）よりお話があるが、細胞検査士あってこそその本学会であり、学会として細胞検査士の質を担保するという意味で大変重要な議題があるのでよろしくお願いしたい。

森谷 卓也 副理事長： 2週間後に開催されるICCでは、長村監事をはじめとして複数の先生方にご協力いただきJSCCコンパニオンミーティングを無事に開催する運びとなった。また12月にはJHU-ASC-JSCC合同ワークショップ2022があり、徐々にコロナの中平常にもどっていくことを期待している。また本日は、学術委員会（委員長 前田 一郎）より学術集会のあり方についてのお話がある予定であり、ご審議をお願いしたい。

森井 英一 副理事長： 本日は、就労規則の改定などについての議論をお願いしたい。

岡本 愛光 副理事長： 経理の健全な運営が求められている。本日は秋の監査会の報告があり、今後の学術講演会の運営方法も含めて討論ができればと考えている。

前回（2022年度第2回理事会）議事録について

2022年度第2回理事会の議事録確認が行われた。

総務庶務報告（2022年10月17日現在）

全会員数：12,986名

（正会員 5,720名、準会員 7,023名、名誉会員 38名、功労会員 190名、図書会員 15件）細胞診専門医および細胞診専門歯科医数：3,152名（実数）

（認定：細胞診専門医 4,025名、細胞診専門歯科医 114名）

FIAC：110名 MIAC：33名

細胞検査士数：8,036名（実数）（認定 10,942名）

CT(IAC)：3,780名

物故会員（2022年5月25日～2022年10月17日）

名誉会員 岩坂 剛 殿

功労会員 菊池 義公 殿（大木記念女性のための菊池がんクリニック）

正会員 石川 由起雄 殿（（株）アイル板橋中央臨床検査研究所 病理診断部）

大井 賀広 殿（JA 静岡厚生連遠州病院 臨床検査科）

副島 和彦 殿（東京共済病院 臨床検査科）

松田 陽子 殿（香川大学医学部 病理病態学・生体防御医学講座 臨床病理学）

準会員 浦川 将一 殿（独立行政法人地域医療機能推進機構人吉医療センター 検査室）

佐藤 加代子 殿（（公財）山口県予防保険協会 保険部臨床検査グループ）

山田 哲司 殿

黙祷

大会準備状況

第 61 回秋期大会（伊藤 潔、仙台サンプラザホテル・ホテル仙台ガーデンパレス、2022 年 11 月 5 日（土）～6 日（日））、第 64 回春期大会（藤井 多久磨、名古屋国際会議場、2023 年 6 月 9 日（金）～11 日（日））、第 62 回秋期大会（横山 正俊、福岡国際会議場・福岡サンパレス、2023 年 11 月 4 日（土）～5 日（日））、第 65 回春期大会（森井 英一、大阪国際会議場、2024 年 6 月 7 日（金）～9 日（日））、第 63 回秋期大会（進 伸幸、幕張メッセ、2024 年 11 月 16 日（土）～17 日（日））、第 66 回春期大会（田畑 務、京王プラザホテル、2025 年 6 月 27 日（金）～29 日（日））の準備状況に関する報告が行われた。

【常置・各種委員会から報告】

総務委員会（委員長 進 伸幸）【資料 1】

〔報告事項〕

1. 学会内、他学会との調整を行い、円滑に学会運営が行われるよう対処している。
2. 委員長進が、31 回日本医学会総会（学術集会は 2023 年 4 月 21 日から 23 日に開催、東京国際フォーラムおよび丸の内・有楽町エリア（展示））の日本医学会分科会登録推進委員

会合（web 会議）に参加した（118 学会参加）。門田守人会長、第 31 回総会春日雅人会頭より挨拶があった。現在日本臨床細胞学会からは 68 名が参加登録しているが、1000 名以上の参加登録がなされている学会も数個あり、各分科会からの参加推進が求められた。総会のパンフレット（資料 1）を各理事・監事に配布して周知した。11 月 30 日までの参加登録で 1 万円割引が受けられる。割引後で医師は 25,000 円（現地+web 参加）、over75 または under40 では 15,000 円、団体割引は 11 名につき 1 名無料、メディカルスタッフは 5,000 円（現地+web 参加）または 3,000 円（web 参加）、などである。プログラム、学術奨励賞推薦、各分科会パネル展示などの説明が行われた。なお本会では、細胞診専門医研修会単位 1 単位認定予定である。

3. 第 31 回日本医学会総会における加盟学会の紹介のためのパネル展示作成において、渉外広報委員会（三上芳喜委員長）での検討に参加した。

4. 情報処理委員会事務局 WEB 会議（伊豫田明委員長主催）に参加し、HP 管理（改修）、マイページ項目などの検討協議に加わった。

〔審議事項〕

なし

情報処理委員会（委員長 伊豫田 明）（代理 伊藤 仁）【資料あり 議事録 3 点】

〔報告事項〕

1. 細胞診専門医会で作成している専門医名簿について、細胞診専門医会で個人情報保護上問題を指摘され、今回、日本臨床細胞学会の方へ、セキュリティーのしっかりした当学会マイページでの掲示を希望され、当委員会への検討の依頼があった。細胞診専門医会の名簿には、専門医番号、名前、勤務先が記載されているが、現在、機構専門医は公表義務があり、細胞診専門医名は本名簿以外に都道府県毎に名前のみを学会ホームページに掲示している。したがって、今回本名簿をマイページに公開する場合には、例えば PDF など、専門医番号、勤務先（病院名など）が新たに掲示されることになる。ただし、マイページに掲示する場合は、これまでは専門医のみが見ることができたのが、マイページにアクセス可能な会員全員が閲覧できることになる。

現状での対処方法としては、（マイページにこれまでの名簿を PDF 化して掲示、ただし、新たな開示のため、専門医番号、勤務先の開示について「諾否」を確認し、「否」の場合は名前のみ開示する）であり、事務局に確認したところ諾否の確認作業については外注せずに事務局職員が対応できるので費用の発生はない。手順としては、

- ① アンケートサイトの作成 作成→確認と修正→完成で一週間程度かかる。
- ② 全専門医へ一斉メールで説明とエントリーのお願い→期限を切りそれまでにご連絡が無ければ「掲載可」とすると明記する。
- ② 期限後、掲載拒否者の情報を反映した名簿作成

④最終確認後、マイページに名簿公開

との事であった。

（専門医名簿についてマイページにこれまでの名簿を PDF 化して掲示、ただし、新たな開示のため、専門医番号、勤務先の開示について「諾否」を確認し、「否」の場合は名前のみ開示する）について情報処理委員会で審議したところ、

上記案に賛成 6 名 諾否確認なく開示 1 名 と全員が開示に関しては、賛成であった。投票結果から、情報処理委員会としては、上記案ですすめることを提案する。

2. 以下の依頼があり対応した。

渉外・広報委員会より、来春開催される第 31 回日本医学会総会（東京）において加盟学会の紹介のためのパネル展示の要請があり、渉外・広報委員会として準備を開始し、医学会より送付されたひな形に基づいた粗案に対して、情報処理委員会として現時点で加えたい事項やキーセンテンス・キーワードの依頼があり、渉外・広報委員会へ返答した。

3. 佐藤理事長よりホームページの不具合や、インターグループとの作業状況、マイページ改訂に関することなど、情報処理委員会委員と事務局で月例会議を開き確認しながら進めるよう依頼あり、原則 1 回/月で行うこととなった。

2022 年 7 月 22 日、8 月 26 日、10 月 28 日の 3 回施行している（議事録参照）

その結果、以下を確認した。マイページについてはサーバーの改善により作業可能となり、現在あるデータベースをもとに会員情報を掲載する準備を整えて、現在あるデータ分（会費支払履歴、学術集会参加状況、細胞診専門医会/細胞診専門医セミナー参加状況、細胞診専門医指定講座/ワークショップ/教育セミナー参加状況、e ラーニング受講状況など）は 10 月 3 日掲載され、アクセス集中を防ぐため 10 月 3 日より 5 日間に分けて、全会員へメールを送信した。サーバーの容量の問題から過去 5 年の開示としている。

4. バナー広告 1 件（畿央大学） 掲載許可

〔審議事項〕

専門医名簿はマイページにこれまでの名簿を PDF 化して掲示、ただし、新たな開示のため、専門医番号、勤務先の開示について「諾否」を確認し、「否」の場合は名前のみ開示する」について

審議結果⇒承認

学術委員会（委員長 前田 一郎）【資料 1 点】

〔報告事項〕

1. 2022 年度学会賞・技師賞・班研究課題の選考
2. 班研究に対するグラントナンバーを作成する
3. 「学術集会のあり方・申し合わせ事項」一部変更

〔審議事項〕

1. 学会賞

廣岡保明（鳥取県立中央病院 院長）

学術委員会委員の評価：学術発展に対する業績（平均 9.3）、経歴・学会活動・教育など（平均 4.9）、総合評価点（平均 14.2）

コメント：消化器細胞診への学術的功績、日本臨床細胞学会の運営、発展に関しての功績は高く、学会賞の授与にふさわしいと考える。学術委員会として、委員全会一致で、廣岡保明殿を学会賞候補として推薦する。

審議結果⇒承認（賛成者多数）

2. 技師賞（学術部門）（資料 1）

大河戸光章（杏林大学保健学部臨床検査技術学科）

学術委員会委員の評価：学術発展に対する業績（平均 4.7）、経歴・学会活動・教育など（平均 8.3）、総合評価点（平均 13.0）

コメント：これまでに HPV に関連した優れた研究成果と細胞診断学教育に貢献してきた。日本臨床細胞学会技師賞学術部門候補者として相応しく、学術委員推 6 割の推薦を得ている。学術委員会として、技師賞（学術）候補として推薦する。

審議結果⇒承認（賛成者多数）

3. 技師賞（功労部門）

前田ゆかり（社会医療法人博愛会相良病院臨床検査部・臨床検査部部長）

学術委員会委員の評価：学術発展に対する業績（平均 4.7）、経歴・学会活動・教育など（平均 8.3）、総合評価点（平均 13.0）で、技師賞（功労部門）

コメント：学会総会で多くの発表歴があり、特に乳腺細胞診の発展に大きく寄与した。さらに鹿児島県子宮頸がん啓発活動など、細胞検査士として社会活動へ積極的に参加し、医療者とし臨床・教育・研究における多大なる貢献がみられる。技師賞功労部門の候補として推薦する。

審議結果⇒承認（賛成者多数）

4. 班研究課題

内藤嘉紀（久留米大学病院 臨床検査部・准教授）

課題名：胆汁細胞診における新たな診断区分の確立

学術委員会委員の評価：独創性（平均 2.0）、合理性（平均 2.6）、インパクト（平均 2.3）、将来性（平均 2.4）である。

コメント：胆汁細胞診検体に液状化細胞診（LBC）を使用し、良悪性の判定が困難な症例に

対して免疫染色評価により、有用な抗体を抽出する研究である。学術委員の評価では新規性、インパクト、将来性の項目で3点満点と評価した委員は少数であるが、合理性、実臨床に沿った臨床研究である。学術委員会として、班研究課題に推薦する。

審議結果⇒承認（賛成者多数）

5. グラントナンバー

JSCCG 年号 01 から準じ繰り上げる

例； 班研究：JSCCG202201

審議結果⇒承認

6. 【「学術集会のあり方・申し合わせ事項」】

変更事項

- ・ Web 開催 → Online 開催
- ・ 配信は日本臨床細胞学会事務局の業務とすることが可能とする。
- ・ 開催方法

以下の3つの方法を想定する。（開催方法は大会長の裁量の範囲内とする）

- 1) 現地開催：学会場に、講演者、閲覧者が参加する形態
- 2) Online 開催：インターネット配信する形態。インターネット配信には、ライブ配信とオンデマンド配信（e-learning を含む）とがある。それぞれ単独、もしくは両者を組み合わせで開催する。

（ア）Online 開催において、大会長は学会員に各講演、講習におけるクレジット修得の可否につき通知する必要がある。

（イ）オンデマンド配信は、撮影は大会業務とし、配信は日本臨床細胞学会事務局の業務とすることが可能である。

（ウ）オンデマンド配信の候補（日本臨床細胞学会事務局として100コンテンツ以内）（配信するセッションの候補は大会長の采配の範疇である）

会長講演、特別講演、要望講演、教育講演、領域講習、最優秀論文賞講演、班研究報告、e-ポスター、細胞診専門医セミナー、共通講習、ランチョンセミナーなどの企業講演など

- 3) ハイブリッド開催：現地開催とインターネットを用いた Online 開催（オンデマンド配信のみ、ライブ配信のみ、あるいはオンデマンド配信とライブ配信）の双方で開催する形態

審議結果⇒承認

質疑：

- ・ 藤井 多久磨 理事： オンデマンドでクレジットを付与する手続きはどのようなになるのか？

→専門医機構の単位に関しては学会は関与しない。それ以外の単位付与については、ログイン情報から確認して単位を付与する形式となる。視聴内容に関する設問は設けない。実際の

運用面においては、すり合わせをしていく。

・森井 英一 副理事長： オンデマンドにおける事務局の作業として、ログを確認し受講者全員に単位を付与することは可能であるが、視聴内容に関する試験に合格した受講者のみに単位を付与するというのは無理である。

・宮城 悦子 理事： 制度審議委員会へ、内規申合わせ集への追加・変更のご連絡をいただきたい。

計理委員会（委員長 田畑 務）【資料 1～4】

〔報告事項〕

1. 2022 年 9 月 14 日(水)に、秋の監査会を開催した。佐藤之俊理事長、田畑務計理委員会委員長、佐々木寛監事、長村義之監事、会計士事務所 中田ちず子氏が参加、第 63 回日本臨床細胞学会春期大会の決算、2023 年に開催される学術集会の予算案の確認、10 周年記念事業の費用等、確認を行った。

2. その他

〔審議事項〕

なし

編集委員会（委員長 矢納 研二）【資料 1】

〔報告事項〕

1. 投稿論文の、編集作業中（資料 1）。
2. 年間 6 回の電子ジャーナルの刊行、依頼稿年間 6 本を予定。
3. 春期大会開催中に 1 回、それ以外に 2 回の編集委員会を開催予定。
4. 第 64 回日本臨床細胞学会総会（春期大会）に於いて、試験的に発表演題の一部を、あらかじめ投稿論文化することを指定する活動を行い、今後の学会発表と投稿論文との連携化を模索する。

〔審議事項〕

なし

細胞診専門医委員会（委員長 植田 政嗣）【資料 1～4】

〔報告事項〕

1. 令和 4 年度細胞診専門医資格認定試験について（資料 1）
2022 年 12 月 17 日(土)に AP 浜松町で行う。新型コロナウイルスの終息が見えない中で、今年度の試験についても、顕微鏡を用いた検鏡試験ではなく、バーチャルスライドで行う予定である。筆記試験および印刷物による細胞診断試験（プリント問題）については、従来通

りに実施する。総合科 143 名、歯科 10 名の出願があった。9 月 10 日（土）に受験資格審査会を行い、総合科 111 名、歯科 10 名、計 121 名の受験資格を認定した。なお、今秋に病理専門医受験予定の 29 名については、合格通知の確認により受験資格を与えることが了承された。なお、令和 5 年度の細胞診専門医資格認定試験は 2024 年 2 月に予定している。

2. 令和 4 年度細胞診専門医資格更新について（資料 2）

今年度の対象者ナンバーは、0001-0593、0900-1005、1242-1308、1510-1587、1798-1876、2275-2366、2673-2765、3052-3137、3405-3500、8018-8034、8056-8060 である。5 年毎更新の新単位制度による 3 回目の資格更新となる。昨年同様に、資格更新申請用フォーマットによる web 申請とする。なお、細胞診専門医の診療領域別講習単位として、地域連携組織や都道府県連携組織の学術集会参加単位（2 単位）が認められているが、「都道府県連携組織に加入しない者の学術集会の出席単位は認めない」との規程がある。いずれかの連携組織に所属していれば他の連携組織学術集会出席単位も認められることを全連携組織に周知することにした。

3. サブスペシャリティ領域専門医について（資料 3）

細胞診専門医の機構認定サブスペ専門医への申請については、認定条件のハードルが高いことや、デメリットも多いことから見合わせる方向が 3 月の理事会で決定されていたが、その後機構から学会認定機構承認サブスペ専門医を認める方向性が示された。7 月のみなし理事会で前向きに対応することが決定され、病理学会サブスペ連絡協議会を通じて 9 月末日までに申請書類（レビューシート）を機構に提出した。

4. 細胞診精度管理アドバイザーについて（資料 4）

新しいがん検診スタイルに適応した細胞診専門医あり方検討ワーキンググループ（齋藤豪委員長）の意向を受けて、細胞診精度管理アドバイザー（子宮頸がん）の位置づけや認定条件について検討中である。2022 年度内には松浦祐介担当理事を中心に施行細則（案）を作成する予定である。

5. e ラーニングについて

e ラーニングシステムを構築し 2019 年 2 月より運用を開始した。現在までに共通講習 42 コンテンツ（含 指導医講習 9 コンテンツ）、領域講習 59 コンテンツ、検査士講習 18 コンテンツをアップした。

〔審議事項〕

なし

施設認定制度委員会（委員長 廣岡 保明）【資料 1～2】

〔報告事項〕

1. 2022 年度 新規施設認定について

9 施設の申請があり審査の結果、①認定 4 施設、②条件付認定 2 施設、③認定不

可は3施設、となり、イエローページ（2022年7月号）に施設名を掲載した

2. 2022年度 新規教育研修施設認定について

1 施設の申請があり審査の結果認定され、イエローページ（2022年7月号）に施設名を掲載した

3. 2022年度 認定施設 更新状況（2022年9月15日（火）現在）

全更新対象施設数：73施設、更新可：71施設(97.3%)、未申請：1施設(1.4%)、更新辞退：1施設(1.4%)

4. 2022年度 教育研修施設 更新状況（2022年9月15日（火）現在）

全更新対象施設数：51施設、更新可：49施設(96.1%)、未申請：2施設(3.9%)

5. 2021年度 認定施設年報提出状況（2022年9月15日現在）

全869施設中 提出：856施設（98.5%）、未提出：13施設（1.5%）

6. 2021年度 教育研修施設年報提出状況（2022年9月15日現在）

全322施設中 提出：329施設（99.1%）、未提出：3施設（0.9%）

7. 2021年度・内部精度管理（コロナ禍のため4施設の書類審査）：内部精度管理WG（浦野誠WG長）のもとで4施設（横浜市立大学附属市民総合医療センター、公立学校共済組合近畿中央病院、千葉徳洲会病院、株式会社中部パソロジー）の審査の結果、公立学校共済組合近畿中央病院で要改善の項目（細胞検査士認定証の添付なし、症例検討会の記録不備）があったため、改善するように指導した。改善の報告があれば総合評価を良に変更することとした。それ以外の施設ではいずれも調査項目すべてにおいて良好な評価であり、総合評価【良】と判定された

8. 2022年度・内部精度管理（実地調査4カ所）：内部精度管理WG（浦野誠WG長）のもとで2022年実施予定（コロナ禍のため書類審査に変更）

9. 外部精度管理（全認定施設でコントロールサーベイ）：外部精度管理WG（湊宏WG長）のもとで、2022年度に実施予定で、すでに問題作成終了

10月上旬：全認定施設に問題（DVD）、回答用紙を発送予定

11月上旬：回答締切（必着）の予定

〔審議事項〕

1. 施行細則（附則）の改訂、ガイドラインの改訂について

・施設認定に関する施行細則（附則）の改訂について（資料1-1,1-2）

・精度管理ガイドラインの改訂について（資料2-1,2-2）

審議結果⇒継続審議

質疑：改訂に関する制度審議委員会からの指摘を施設認定制度委員会で再検討の上で、通信理事会での審議にける方向で進める。

細胞検査士委員会（委員長 都築 豊徳）【資料 1～6】

〔報告事項〕

1. 2022 年度(第 55 回)細胞検査士資格認定試験

一次試験は 2022 年 10 月 29 日(土)に、CIVI 研修センター新大阪東及び新大阪丸ビル別館にて実施予定。

二次試験は 2022 年 12 月 3 日(土)・4 日(日)に、ウインクあいち（愛知県、名古屋市）にて実施予定。

2. 2023 年 CT（IAC）資格認定試験

2023 年は実施予定。開催時期は 6 月 24 日（土）を予定。試験会場は A P 浜松町を仮押さえる中。学会ホームページに案内を掲載。

〔審議事項〕

1. 単位申請方法について（資料 1）

審議結果⇒承認（賛成多数） 地方研修会・学術集会において、当初の内容と異なる実施内容であった場合、次年度の会では単位申請不可となる。

質疑：

・進 伸幸 理事： 翌年度に単位申請不可となった場合、参加者の減少が危惧されるのでは？

→会の質の担保や、IAC の単位認定があることを考慮すると必要なことであると考える。

2. 地域研修会・学術集会のクレジットに関する規約（資料 2）

審議結果⇒承認（賛成多数） 規約の内容に関する整合性をとる。

3. 細胞検査士の基礎単位認定の業種について（資料 3）

（一般検査、輸血業務、緊急検査を単位認定業務に加えるか否か）

審議結果⇒継続審議

質疑：

・阿部 仁 理事： 緊急検査では血液検査（血液像、血液像の目視）も含まれており、血液学に関わってくる部分もあり、緊急検査を単位認定業務に加えることをご審議いただきたい。

→学会として検査士の質の担保を考えた場合、どこで線引きをするかが問題である。

・佐藤 之俊 理事長： 施設間でも事情が異なる部分もあり、悩ましい問題である。

・進 伸幸 理事： 施設内での細胞診のカンファレンスへの出席などを行っている場合はどのように考えるべきか？

→現時点では何も決め事がない状態であり、細則の大掛かりな改訂が必要になる。

・阿部 仁 理事： 国公立系の医療機関では業務のローテーションで病理・細胞診業務から

外れることもしばしばある。資格認定の維持に関して毎年 25 点が加算されるが、これが認められなくなることは大きなことであり、この点を考慮して検討していただきたい。

・中村 直哉 副理事長： 細胞診から離れた検査会社での勤務の場合は、単位認定しない形でよいのではないか。

→検査会社の中でもローテーションが行われている場合も多く、一概に判断できない部分がある。今後、単位認定において部分点のようなものを作ることも解決策の一つとなる可能性がある。

4. 細胞検査士の単位認定業務の簡略化について（資料 4）

審議結果⇒継続審議（細胞検査士委員会・細胞専門医委員会それぞれで内規を作成した上で次回の理事会で審議する。電子化についても併せて進める方向で検討する。）

質疑：

・森井 英一 副理事長： 委員長の承認日を明記し、押印を廃止するという案はどうか。

→押印を廃止できるのであれば、その方向で進めたいと考えている。

・青木 大輔 理事： 委員長が承認したとする証拠はどのように管理されるのか？

→委員長とのやりとりの記録を資料として事務局が保管する形とする。

・佐藤 之俊 理事長： サインと日付が、簡便に電子的に残るようなシステムになることをイメージしているがどうか？

→現在は、委員長が押印して施設に単位認定通知書を送付しているが、事務局に記録が何も残らない形となっている。押印を廃止し、事務局が確認・資料の保管を行う方が、現状の改善につながる。

・植田 政嗣 理事： 細胞診専門医委員会でも単位認定業務および委員長の押印を行って書類送付をしているが、事務局で記録が残る形になっている。

・宮城 悦子 理事： 内規が存在しないようであれば、専門医・検査士それぞれで矛盾の無いように作成し、内規に格納すべきと考える。

5. 次年度の細胞検査士試験の運用について（資料 5）

審議結果⇒承認（二次試験での借用可能な顕微鏡の数に応じて、一次試験の運用を資格試験型から競争試験型へ変更するなど適時対応可能とする。）

質疑：

・阿部 仁 理事： 次年度以降、オリンパスからは顕微鏡を借用できず、ニコンからは借用可能ということか？

→オリンパスからは、事業の先行きが不透明であり借用について確約できない旨の連絡が来た。

・植田 政嗣 理事： ニコンからは継続的に借用可能ということか？

→ニコンについても不透明である。最悪の事態として両者から借用できなくなることも想

定が必要であり、検討もしている。

借用可能な顕微鏡が半減した場合、試験の運用の変更について詳細はどうなるか？

→不透明な部分が多く、現在議論できる材料はなく、状況に応じて運用することを細胞診検査士委員会に一任いただきたい。

試験の形式が大幅に変更となるのであれば、受験生に対しての早めのアナウンスが必要である。

→そのように対応する。

・佐藤 之俊 理事長： 借用できる顕微鏡が半分になる場合や、全く使用できない場合についての考えはどうか？

→ニコンから借用できることが大前提で、顕微鏡が半分になった場合は、一次試験の中に大量の同定問題を出题し競争試験型とし、一次試験合格者を従来の半分以下とする。二次試験は、スクリーニングだけに特化した試験とすることを考えている。全く使用できない場合については、大きな改訂が必要であり、現時点では議論ができないと考えている。

・進 伸幸 理事： オリンパス側からの最終的な返答はいつ頃になるのか？

→わからない。

受験生への試験方式変更についてのアナウンス時期について

→借用できる顕微鏡が半減することが明らかになった時点で、理事会（場合によりみなし理事会）にて審議の上で、速やかにアナウンスを行う。（賛成多数）

6. 次年度の細胞検査士試験の会場確保について（資料6）

一次試験について：

審議結果⇒承認

細胞検査士資格更新審査委員会（委員長 井上 健）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 2022 年度細胞検査士資格更新対象

1-8、9-68、195-272、440-584、913-1060、1354-1557、2259-2457、
3120-3457、4210-4452、5135-5349、6051-6203、6749-6943、7686-7876、
8613-8869、9559-9879

※2023 年 2～3 月に更新審査予定

〔審議事項〕

なし

教育委員会（委員長 生水 真紀夫）【資料1】

〔報告事項〕

1. 2022 年度各種セミナー開催予定（資料 1）
2. 細胞診断学セミナー：講義（Web on demand; 9 月 9 日～30 日），鏡検実習を第 61 回日本臨床細胞学会秋期大会（仙台）会期中に（ホテル仙台ガーデンパレス、11 月 5 日～6 日）実施する。鏡検実習（25 名）、オンラインでの受講者（61 名）。

〔審議事項〕

なし

渉外・広報委員会（委員長 三上 芳喜）【資料 1】

〔報告事項〕

1. 渉外・広報委員会委員長（三上）が 9 月 9 日（木曜、13:30～15:30）に開催された一般財団法人医療関連サービス振興会の令和 4 年度第 2 回衛生検査所調査指導中央委員会に副委員長として出席した。
2. 第 31 回日本医学会総会（2023 年 4 月 21 日～23 日、東京）で企画されている分科会/加盟学会展示への参加を要請され、佐藤理事長の指示によりポスター展示の準備に着手した。11 月中に関係理事（委員会委員長）等によりポスター案を示して意見収集を行い、12 月初旬までに最終版を確定して学会事務局（分科会/加盟学会展示準備室）に提出する予定である（12 月 23 日締切）。
3. 『中皮腫の診断精度向上のための講習会』（環境省主催、2022 年 10 月 30 日、WEB 形式）の後援名義使用申請が株式会社オーエムシー（東京新宿区）よりあり、佐藤理事長、進総務委員会委員長の承認を得て、承諾した。
4. 本学会 HP に公益社団法人日本産科婦人科学会ホームページ上の HPV ワクチンに関する広報サイト『子宮頸がん HPV ワクチンに関する正しい理解のために』（https://www.jsog.or.jp/modules/jsogpolicy/index.php?content_id=4）にリンクするバナーを追加した（7 月 12 日）。

〔審議事項〕

なし

社会保険委員会（委員長 若狭 朋子）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 2024 年診療報酬改正に向け、要望書を作成するとともに、内保連、厚労省などと交渉を進め、あるいは対外的に活動していく。
2. 2022 年 7 月 R6 年度診療報酬改訂についてのアンケート調査を実施
集まったご意見を基に、要望項目の選定を進めている。
（アンケートへのご協力、ありがとうございました）

3. 今後の予定

2022 年 11 月 第一次提案書 概要を決定

2022 年 12 月上旬 内保連へ第一次提案書提出

2023 年 4 月 内保連への提案書最終提出締切

2023 年 4 月 内保連によるヒアリングの実施

2023 年 5 月 内保連各委員会での最終調整締切

2023 年 6 月 提案書を厚労省に提出

2023 年 7 月 厚労省のヒアリング

〔審議事項〕

なし

地域連絡委員会（委員長 伊藤 潔）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 2021 年度都道府県地域連携組織・連合地域連携組織活動報告について：

1) 2021 年度報告書の回収について準備をしていく。2023 年 1 月頃、各地域組織へ連絡する予定である。

2. 地域連携組織に対する活動支援（子宮の日）について：

1) 2022 年度

申請件数 38 件（47 件中）

調査集計最終 内訳

開催中止：9 件

開催実施済：17 件

開催実施予定：12 件

2) 2022 年度

各地域学会より、申請書類の受付を行い、成果報告書の受付を開始している。

今年度より、成果報告書もアンケートフォームを使用して提出をお願いしている。

2022 年 9 月 14 日現在、17 件の成果報告書が提出されている。

〔審議事項〕

なし

国際交流委員会（委員長 榎本 隆之）【資料 1-6】

〔報告事項〕

1. 春期、秋期大会時におけるグローバルアジアフォーラムの支援

第 61 回日本臨床細胞学会秋期大会；2022 年 11 月 5 日（土）～6 日（日）；仙台

→開催見合わせ

第 64 回日本臨床細胞学会春期大会；2023 年 6 月 9 日（金）～11 日（日）；名古屋

→藤井会長と相談・検討中

2. 日-韓、日-タイ、日-中 合同カンファレンス（合同会議）のサポート

<韓国>

第 19 回日韓細胞診合同会議（資料 1）；

2022 年 9 月 3 日（土）（10:20-12:40・web 会議）日本から 34 名参加

第 20 回日韓細胞診合同会議；

2023 年 9 月 2 日（土）群山市 Gunsan Saemangeum Convention Center での開催予定

<タイ>

第 28 回日-タイ細胞診ワークショップ

2022 年 1 月 19（水）～21 日（金）Shangri-La Hotel, Chiang Mai, Thailand →中止

タイ側では、タイ国内における対面式開催を希望、web や hybrid 開催の予定はなし

2023 年 1 月の再開を検討中

<中国>

2022 年 8 月の中国細胞学会への講演要請があったが、web 講演での通訳の問題が解決できず見合わせ

3. オーストラリアとの交流（資料 3）

長村 義之 監事・榎本 隆之 委員長と ASC Dr.Andrew との間で、今後の JSCC-ASC での exchange program について相談していただいたが、オーストラリア側の金銭的理由で実現困難。

4. カンボジアとの交流サポート

審議事項へ

5. JSCC Companion Meeting（資料 4）

2022 年 11 月、ボルチモアでの ICC 開催期間中に JSCC companion meeting を開催

日程；2022, Nov 19 (Sat.) 8:00-10:00

プログラム；資料 4

〔審議事項〕

1.JHU-ASC-JSCC 合同ワークショップ 2022 の企画、運営（資料 2）

2022 年 12 月 10 日（土）・12 月 11 日（日） 9 時～17 時 本番

会 場：；お茶の水ソラシティカンファレンスセンター

暫定プログラム；資料 2

参加費：1 万円？

予算書：資料 5

2019 年度決算書：資料 6

審議結果⇒承認

質疑：

- ・佐藤 之俊 理事長： 今回、コンベンション会社を入れて行うことになり予算を計上した。開催後にきっちりとレビューし、次回の開催に向けてどうするか議論が必要である。内容は興味深いものが多く、沢山の先生方の参加をお願いしたい。
- ・前田 一郎 理事： すばらしい企画であり、オンデマンドで視聴できる工夫はどうか？
→今回は検討する時間がなかったため、次期委員長のもとで検討していただきたい。
- ・横山 正俊 理事： 2023 年の秋期大会でもアジアフォーラムを開催する方向でご相談したい。

2.カンボジアとの交流サポート

学会本部の予算をいただいたのは2018年の札幌の斎藤学会から5年間の予定だったのですが、2018年春は、カンボジアにおいて公務員の海外渡航が禁止されたこともあり、実現できておりません。（これは先方の都合による中止）です。

実施できたのは

2018年秋 横浜 中村学会

2019年春 東京 竹島学会

2019年秋 岡山 森谷学会 だけです。

2020年以降はコロナで中止されています。

しかし、国際スライドカンファレンスなど、webでの参加は続いております。

5年間ということなので、2018年から2022年秋、までになるのですが、

3年間止まっていますので、2025年まで、

という拡大解釈でお願いしたいです。

よろしくお願いいたします。

若狭朋子

審議結果⇒承認（賛成多数）

制度審議委員会（委員長 宮城 悦子） 【資料 1-2】

〔報告事項〕

1. 臨床試験審査委員会より審議依頼があった定款・施行細則 p.92「臨床試験審査の指針」改定案について令和4年6月13日（月）より6月17日（金）にメール審議を行った。内容は資料1 議事録参照。
2. 日本臨床細胞学会事務局より審議依頼があった「公益社団法人 日本臨床細胞学会 事務局職員就業規則」および「事務局職員育児休業取扱要綱」改定案、「ハラスメント防止要綱」案（新規）について令和4年10月3日（月）より10月7日（金）にメール審議を行った。内容は資料2 議事録参照。

3. 施設認定制度委員会より定款・施行細則 p.41「施設認定に関する施行細則」改定案および「細胞診精度管理ガイドライン」改定案が提出され審議予定である。（議題提出時点）

4. 第2回理事会にて承認された以下の項目の改定を行った。

定款・施行細則 p.92 「臨床試験審査の指針」

〔審議事項〕

なし

医療安全委員会（委員長 藤井 多久磨）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 医療安全セミナー開催予定

第61回日本臨床細胞学会秋期大会

演題名：医療訴訟から学ぶピットフォール

演者：東京神楽坂法律事務所 水沼直樹先生

座長：福島県立医科大学医学部産科婦人科学講座 教授 藤森敬也先生

日時：2022年11月5日（土）17:00～18:00

2. MSC ホットラインの事例が発生した場合の体制を整えておく（鑑定人およびそれに関する臨時の全域）

3. MSC ホットラインの活動報告 今期、MSC ホットラインへの相談実績はなかった。

4. 医療事故調査機構の情報について 日本臨床細胞学会への調査要請は今のところない。

〔審議事項〕

なし

倫理委員会（委員長 伊藤 仁）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 演題募集の際の倫理指針について、2022年の第61回日本臨床細胞学会秋期大会から適用された。

2. 第64回日本臨床細胞学会総会春期大会の倫理セミナーについて検討中である。

〔審議事項〕

なし

利益相反委員会（委員長 大平 達夫）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 役員および発表者（非会員含む）の事業活動に係わるCOI状態の判断ならびに助言、指導

を行う。

2. 会員個人の COI 申告に関する疑惑が生じた時は調査活動、関係する施設・機関との情報交換、改善措置の勧告を行う。

3. 2022 年利益相反自己申告書の提出と回収。

〔審議事項〕

1. 次回以降は、COI の申告で紙ベースを使用しない。

審議結果⇒承認（賛成多数）

臨床試験審査委員会（委員長 小田 瑞恵）【資料 1】

〔報告事項〕

1. 現在進行中の臨床試験は以下の通りである。 ・ 「一般住民を対象とした子宮頸がん検診における液状化検体細胞診と HPV DNA 検査との併用法の有用性を評価する前向き無作為化比較研究」(CITRUS スタディ) (臨床試験主任研究者、青木大輔先生)

・ 「呼吸器細胞診報告様式に関する研究」(臨床試験責任者、中澤匡男先生) の追加試験として、日本臨床細胞学会会員による新呼吸器細胞診報告様式の観察者間の一致率および教育効果による観察者間一致率の変動の検討 (管理責任者、佐藤之俊先生)

2. 定款細則の「公益社団法人日本臨床細胞学会 臨床試験審査の指針」の改定について。

2021 年 3 月 23 日より「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」と「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」が統合され、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」として定められた。なお「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」は 2021 年 6 月 30 日に廃止となったので、「公益社団法人日本臨床細胞学会 臨床試験審査の指針」を上記に沿った内容に改定するよう制度審議委員会に発案した (資料 1)

3. 臨床試験が提出された場合には、随時、審査を行う。

〔審議事項〕

なし

IAC 連絡委員会（委員長 青木 大輔）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 第 21 回国際細胞学会 ICC2022 が第 70 回米国細胞病理学会との併催で 2022 年 11 月 15 日から 20 日まで米国 Baltimore にて開催される。the 70th Annual Scientific Meeting of the American Society of Cytopathology と同時開催。プログラム内に、JSCC Companion meeting が開催される。

2. 長村 義之 監事より以下のアナウンスがあった。

・ ICC2022 において JSCC Companion meeting (11 月 19 日 8:00-10:00) が開催される。

また、Award セレモニーが最終日に行われ、日本からは青木 大輔 理事 (IAC Kazumasa Masubuchi Lifetime Award 2022)、南部 雅美 氏 (IAC International Cytotechnologist of the year Award 2020) の 2 名が受賞する。

・ IAC の新たな Council Member として佐藤 之俊 理事長が就任予定である。

〔審議事項〕

なし

臨床試験ワーキンググループ (委員長 進 伸幸) 【資料 1】

〔報告事項〕

2022 年事業計画として 下記の研究事業を昨年度に引き続き継続する。

『一般住民を対象とした子宮頸がん検診における液状化検体細胞診と HPV DNA 検査との併用法の有用性を評価する前向き無作為化比較研究 (CITRUS study)』(山梨県、千葉県柏市)

1. 追跡調査 : 被験者の 6 年目の検診結果の把握も含めたデータの収集、解析作業、論文公表のために、研究期間を 2023 年 3 月 31 日までと 2 年間延長している (資料 1)。

2. データの解析、論文化 : 研究期間内を目途に作成。論文作成時には本学会から研究費を含め人的、物的な援助を受けたことを明記する。

3. 進行状況 :

本 CITRUS study は RCT なので、bias を回避するためデータ固定の後でないと両群の比較が出来ないことから、最終解析結果の発表までにはまだ時間が必要である。現在、本研究は、「追跡相」に入っており、医療機関に対する追跡調査、一部のフォローできていなかった被験者に対する個別追跡調査を、研究事務局、データセンター (神戸 TRI)、EDC 管理担当 (メディカルエッジ)、関係医療機関と協力して実施しており、2022 年秋ごろにデータの固定、その後、論文化を行う予定である。

予算を超えての経費が必要なため、研究運営費用の一部を、研究代表者青木先生個人の研究費から拠出しつつ本研究を進めている。本委員会内で、2022 年度末を目処とした CITRUS study の論文化に向けて支援をしている。

4. 青木 大輔 理事より、CITRUS study の進捗について以下の報告があった。

2022 年 11 月末にほぼデータを fix し、解析に入る予定である。

〔審議事項〕

なし

ゲノム診療時代における細胞診のあり方検討ワーキンググループ (委員長 森井 英一) 【資料なし】

〔報告事項〕

1. 指針初版の英語版校正の最終版を確定した。現在、英文投稿中である。
2. 並行して実証実験のまとまったものをもとに指針の改訂作業計画を議論している。
3. ゲノム診療時代において、細胞診は DNA/RNA の重要なソースであることから、その品質保証についての実証実験を行い、様々な状況における細胞診検体における DNA/RNA 品質を検証する。

〔審議事項〕

なし

ゲノム時代における呼吸器細胞診検体処理の精度管理ワーキンググループ（委員長 佐藤 之俊）【資料なし】

〔報告事項〕

1. ゲノム診療時代における細胞診のあり方検討ワーキンググループの事業に協力し、がんゲノム診療における細胞検体の取扱い指針作成の一部を担当した。
2. 英文化の作業を進め、英文雑誌に投稿した。

〔審議事項〕

なし

肺癌細胞診の診断判定基準の見直しワーキンググループ（委員長 佐藤 之俊）【資料なし】

〔報告事項〕

1. IAC-WHO/IARC が進める呼吸器細胞診国際基準の出版（2022 年中に出版予定）に協力する。現在、著者の確認作業を行っている。
2. 日本肺癌学会とともに肺癌取扱い規約の改訂に協力する。
3. 構造異型の所見の標準化を目指し、腺癌・扁平上皮癌の細胞診断の標準化（細胞診で腺癌と扁平上皮癌を鑑別するための構造所見の定義と細胞所見）WEB 公開した。
4. 異型細胞に関する検討を進める。
5. 新たに提案した 4 段階の判定基準に関する検討を進めるため、呼吸器細胞診報告様式に関する研究を進めた。

〔審議事項〕

なし

IAC Yokohama System 乳腺細胞診ワーキンググループ（委員長 森谷 卓也）【資料なし】

〔報告事項〕

- 1.本邦におけるデータの収集を行い、解析中（継続）。多施設共同研究を 2023 年 1 月まで延長している。
- 2.成果は第 61 回秋期大会で発表ののち、論文化を目指す。
- 3.乳癌取扱い規約（日本乳癌学会）の改定に際し、掲載されるよう働きかけを行っている。

〔審議事項〕

なし

細胞診ガイドライン改訂ワーキンググループ（委員長 森谷 卓也）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 各小委員会の改訂案が完成し、公開に向けて pdf ファイルの作製、校正がほぼ終了した。
2. 改定した内容は学会ホームページ等で公表する。
3. 2022 年秋期大会において、3 領域に絞って解説をする。

〔審議事項〕

なし

デジタルサイトロジー・AI 検討ワーキンググループ（委員長 前田 一郎）

【資料 1-3】

〔報告事項〕

1. デジタルサイトロジー・パソロジーで導入状況の調査
2. デジタルサイトロジーを使用した診断・判定機器の調査
3. 2022 年度第 2 回デジタルサイトロジー・AI 検討 WG Web 会議の実施

〔審議事項〕

1. 学会員全員を対象にデジタルサイトロジー・AI についてのアンケート調査を実施する
(資料 1)

審議結果⇒承認（賛成多数）

2. 日本病理学会、日本デジタルパソロジー研究会、日本臨床細胞学会（デジタルサイトロジー・AI 検討ワーキンググループ）の 3 法人で「デジタル病理画像を用いた病理組織・細胞診断の運用ガイドライン（仮）」を作成（下記 3 つの手引き、ガイドラインを改訂）する。
 - ① 「デジタル病理画像を用いた病理診断のための手引き（2016 年）」（資料 2-1）
 - ② 「病理診断のためのデジタルパソロジーシステム技術基準 第 3 版（日本デジタルパソロジー研究会、2018 年）」（資料 2-2）
 - ③ 「デジタルパソロジー ガイドライン（2018/11/23）」（資料 2-3）

審議結果⇒承認（賛成多数）

質疑：

・都築 豊徳 理事： デジタルパソロジーの医療機器は、細胞診に関して認可されているか？

→されていない。

公益社団法人化 10 周年記念事業検討ワーキンググループ（委員長 佐藤 之俊）

【資料なし】

〔報告事項〕

1. 理事長直属のワーキンググループを組織し、事業内容の詳細を決定した。

その内容は

- ①記念講演会・祝賀会については、2024 年 4 月 28 日（日）に東京国際フォーラムにて開催することを確認した。さらに、本学会の歴史、10 周年に会を行う意義、招待者（学会等）、など今後については検討する。
 - ②記念誌編纂については、印刷体で製作すること、2023 年をめどに完成することとし、執筆依頼を行った。
 - ③広報活動については、キャッチフレーズを決めること、精度管理を含めた活動を行うこと、婦人科・細胞診断とは・非婦人科領域（ゲノム診療を含めた）の柱で進めること、他学会等との連携（委員を含め）を行うこと、SNS 中心に発信すること、とした。
2. 第 61 回日本臨床細胞学会秋期大会中に会議を開催する予定。

〔審議事項〕

なし

膵癌腹腔洗浄細胞診標準化ワーキンググループ（委員長 平林 健一）【資料なし】

〔報告事項〕

当ワーキンググループ発足前より行っていた膵癌取扱い規約委員会プロジェクト『膵癌切除例における腹腔洗浄細胞診「疑陽性」の臨床的意義を検討するための多機関共同後方視的研究』の症例登録と簡単な統計学的解析が終了した。この結果をもとに、ワーキンググループ内で擬陽性の取扱いについて討議する予定である。また、腹腔洗浄細胞診の検体処理方法については現在原案を作成中である。

〔審議事項〕

なし

その他

〔報告事項〕

1. 2023 年度・2024 年度理事候補選挙管理委員会（委員長 森井 英一）【資料 1】
2022 年 10 月 12 日（水）第 2 回 2023・2024 年度理事候補選挙管理委員会を開催。
2023・2024 年度全国理事候補選挙開票結果確認等を行った。
次期理事候補者数 457 名
（2022 年 9 月 30 日消印有効）
到着投票用紙数 399 枚（投票率 87.3%）
前回投票率 90.9%
無効投票用紙 21 枚
2. 2023-2024 年度役員選挙スケジュール（0.03_2023・2024 年度役員選挙スケジュール）
理事候補選挙スケジュールの予定が報告された。
3. 今後のスケジュール（0.04_今後のスケジュール）
予定されている理事会等のスケジュールについて確認が行われた。
4. 会員資格停止者について（0.02_資料 1_会費滞納者一覧）
5. 次期細胞診専門医会会長について
次期細胞診専門医会会長として青木 大輔 理事が選出されたことが報告された。

〔審議事項〕

1. 2025 年度（第 64 回）秋期大会長選出について
大会長の選出メンバーにおける厳正な審査の結果、有廣 光司 理事（広島大学病院 病理診断科）を推薦することとなった。
審議結果⇒承認（賛成多数）
学術集会長候補者の選出メンバーは以下のとおりであり、選出作業は本理事会を中断して行われた。
理事長 佐藤 之俊
副理事長 森井 英一、齋藤 豪、中村 直哉、森谷 卓也、岡本 愛光
学術委員会委員長 前田 一郎
前理事長 青木 大輔
（役員等選任に関する施行細則第 2 条より）
2. 今後の選挙の電子化について
 - 1) 評議員には現在配布されている投票用紙と返信用封筒のかわりに、ランダムに割り振った数字を記した用紙を送付する。
 - 2) 評議員は Web 上の電子投票画面に、その数字で入る。
 - 3) Web 上に示された候補者リストから 10 名をクリックして選んで投票する。審議結果⇒承認（賛成多数）

3. 2023・2024 年度全国理事候補者の承認（資料 1）

審議結果⇒承認（賛成多数）

質疑：

青木 大輔 理事： 地方区の理事の人数についてはどのようになっているか？

→前回と同じ人数割り振りとなる。

4. 会員資格復帰希望者について（0.02_資料 2_会員資格復帰希望者）

審議結果⇒承認（賛成多数） 10 名の復会が承認された。

5. 就労規則の変更について（0.05_就労規則の変更）

「公益社団法人 日本臨床細胞学会 事務局職員就業規則」および「事務局職員育児休業取扱要綱」改定案、「ハラスメント防止要綱」案（新規）

審議結果⇒承認（賛成多数）

6. 細胞診専門医会に関する施行細則変更について（0.06_細胞診専門医会に関する施行細則変更）

専門医会の決算報告に関し、「専門医総会において承認を求める」→「本会総会で承認されたものを専門医総会にて報告する」への変更

審議結果⇒承認（賛成多数） 制度審議委員会で検討へ

以上でインターネット会議システムを併用した本理事会は、終始異状なく議題の審議を終了し、森井 英一 副理事長の閉会挨拶をもって終了した。

2023 年 1 月 11 日

この議事録が正確であることを証します。

理事長 佐藤 之俊



監事 長村 義之



監事 佐々木 寛



監事 土屋 眞一

